
バカと武器と召喚獣

タイラント

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと武器と召喚獣

【Nコード】

N0258Z

【作者名】

タイラント

【あらすじ】

この小説は、バカとテストと召喚獣の小説です。

オリ主の名前決定オリ主の名前は……小説の方で確認をどうぞ

のんびり少年（前書き）

初小説です。文字や表現など間違えているかもしれません。間違えていたら「ここ間違えている」と教えてください。

主人公の名前は、三話まで決めます。

のんびり少年

春、ここ文月学園ふみづきも春、そこに遅刻ギリギリなのに普通に歩いてくる青年がおった。

そして、校門の前で一人の男が立っていた。

鉄人「お前は、急ごうとは思わないのか？」

???? 「んっ? ああゝ…鉄人かゝ…」

鉄人「鉄人じゃない、西村先生と呼べ」

???? 「んで、何ですか? 西村先生」

すると封筒を渡された。

鉄人「振り分け試験の結果だ。」

???? 「渡さなくても、俺が何処だか、わかりますよ。」

鉄人「一応渡すことになっているかな。全くお前は、なぜ振り分け試験日に休むんだ。」

お前ならBやCに行けたはずだろうに」

???? 「まっ、気にしないでください。」

鉄人「全くお前は、一度補習を受ける必要があるな。」

まあいい、早く行けもうすぐで、チャイムがなるぞ」

??? 「んじゃ、そういうことで」

と言いながら教室に向かった。

廊下を歩きながら封筒を開け中にある紙を見てこう言った。

??? 「やっぱりFクラスか」

Fクラスの住人？ あっ！間違えた。 クラスメイト（前書き）

今回もあやふやだな～

Fクラスの住人？ あっ！間違えた。 クラスメイト

俺は、A、B、C、D、Eクラスの教室を通って思った。

??? 「ふーん、格差社会てな感じだな……」

実は、俺は1年の2月頃に転校してきて学校のことは全然分からな
いし、友達は、少ない

だが、この学校には、面白いシステムがある。それは、試験召喚獣
システムと言う。

3月の中旬に俺は、召喚獣の扱いを先生に許可をもらい、一応慣れ
させてもらった。

今俺は、Fクラスのドアの前にいる。

??? 「ふーん、ここがFクラスかあ」

E、Fの差が激しいなあ、一気にぼろくなったなあ。」

あんまり気にしないようにしよう。

ドアを開けると男ばかり、まっ友達作るチャンスかもしれな
いけど。

??? 「先生おはようございます。」

福原先生「おはようございます。席は、自由なので好きな所へ
どうぞ。」

??? 「わかりました。」

俺は、窓側の席についた。(ちゃぶ台と座布団)
そのあとにチャイムが鳴って、ちよつとした後に、誰が入ってきた。

明久「ここがFクラスの教室!？」

これが格差社会で、奴か…」

福原先生「吉井君、早く席についてください。」

明久「はあゝ(ー。ー) Ⅱ 3 んで、僕の席は、どこですか？」

福原先生「好きな席へどうぞ。」

明久「席も決まってるのー!!!!!!」

そう言いながらはって来た奴は席についた。

明久「!! 先生、僕の座布団、綿が入って無いんですけど…」

福原先生「我慢してください。」

明久「先生、すきま風入ってるんですけど…」

福原先生「我慢してください。」

バキ!!

明久「先生、ちゃぶ台の足が折れたんですけど…」

福原先生「我慢s [明久「無理だよ!!」]」

福原先生「はっはっはっ、冗談ですよ、これで直してください」

そう言いながら木工ボンドを出した。

なんだこのやり取りと思いながら先生が、自己紹介し始めた。

福原先生「えー、私が、Fクラス担任福原です。皆さん、よろしく
お願いします。では、廊下側の人から自己紹介をお願いします。」

秀吉「木下^{きのした} 秀吉^{ひでよし}じゃ、演劇部に所属しておる。今年1年よろしく
頼むぞい」

女見てーな奴だな。

ムツツリーニ「……土屋^{つちやこうた}康太 趣味は盗tY、何もない 特技は、
盗S、何もない……」

アイツ絶対になんか隠してる。

美波「うちの名前は島田^{しまだ}美波^{みなみ}です。ドイツ育ちで、日本語は、話せ
ますけど読み書きは、苦手です。 趣味は吉井をなぐることです。
はろはろ、吉井、今年もよろしくね」

おいおい吉井と言い奴がびびっているぞ。

明久「えーっと吉井^{よしあきひさ}明久です。

気軽に、「ダーリン」って呼んでくださいね。」

Fクラスみんな「ダーリン!!」

わっかたことがある吉井とか言う奴はバカだ。
と思いつつ自分の番だ。

??? 「俺の名前は………」

Fクラスの住人？ あっ！間違えた。 クラスメイト（後書き）

次回まで主人公の名前を決めないといけなく
＋キャラ紹介しないと

それに終わりがちよつとまいいや

自己紹介するぜ、俺の名前は……（前書き）

前書き　読んでる方様ありがとうございます。

10人位しか来ないかと思っていましたが50人以上の人が読んでくれています。

読んでくれ方様、本当にありがとうございます

自己紹介するぜ、俺の名前は……

「???」 「自分の名前は、武久《むく》 剛史《つよし》だ。
今年い「ガラ」ん!？」

姫路「ハア、ハア、あの遅れてすいません。」

俺の自己紹介の途中でドアを開けて女子が入ってきた。

福原先生「丁度、自己紹介をしていた所なのであなたもお願いします。」

剛史（あれ？ 俺は？）

姫路「あの 姫路《ひめじ》 瑞希《みずき》といっています
よろしく願いします……」

すると周りがざわめきだした。

FクラスA「なんで姫路さんがここに!？」

FクラスB「確か姫路って入学の最初のテストから上位の一桁以内
じゃないか?……あと可愛い」

剛史「ふーん、そうなんだ。」

俺は盗み聴きし事情がわかった。
でもなぜ、学年上位がここにいるんだ?と思った。

FクラスG「あのー質問なぜここにいるの？」

姫路「そ、その…試験中に高熱をだしてしまいました…」

FクラスZ「そういえば、俺も熱（の問題）が出たせいでFクラスに」

FクラスF「ああ、化学だろ？ あれは難しかったな」

FクラスA「俺は弟が事故に遭ったと聞いて、実力を出し切れなくて」

FクラスB「黙れ1人っ子」

FクラスH「前の番、彼女が寝かせてくれなくて」

FクラスW「今年一番の大嘘をありがとう」

はあー一人だけじゃないここにいる全員バカだ。
でも、試験中に高熱を出すとは運が悪いな。

福原先生「えーと…姫路さん好きな席へどうぞ」

姫路「はい、わかりました。」

そう言いつた後の席についた。

そして、俺は立ち。

剛史「あの…すいません、自己紹介し直してもいいですか？」

福原先生「えっ、そうですか、それではどう？」

「バキ、ばらばら」

何もしてないのに壊れてしまった。

俺は、思った。

剛史（ここの設備は、あかんな）

福原先生「工具を取ってくるんで、みなさん自習しててください。」

剛史「えっ！　ちょっと俺の自己紹介は！！」

ばたん

剛史（あーあ、行っちゃった。

なんか変なことになっちゃったな）。

こんなことならちゃんと振り分け試験をちゃんとやっとならばよかった……）

と思いながら俺は、後悔しながら初日が終わった。

自己紹介するぜ、俺の名前は……（後書き）

次回は、武久剛史のキャラ紹介したいと思います。
。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0258z/>

バカと武器と召喚獣

2011年12月2日20時48分発行